

## ムスリムに関する関係者ヒアリング結果概要 総括

### 1. 旅行者の傾向

- ・ムスリムの訪日旅行者が増加傾向にあり、訪日旅行をするムスリムは比較的、厳格で無いムスリムが多い傾向にある。インドネシアよりマレーシアの方が厳格なムスリムが多い。
- ・MICE での訪日は、厳格なムスリムも見受けられる。

### 2. ムスリム旅行者が日本に滞在する上で不安・不自由・不便に感じること

- ・食事の問題が最も大きい。厳格なムスリムはマレー料理店で食事をし、あるいはレトルト食品を持ち込んでいる。一方で、豚肉・酒を摂取しない以外は、寛容な考えのムスリムも見受けられる。日本のレストランに、英語メニューが無い、あるいは原材料表記がなされていないことなどが不安要素となっている。
- ・礼拝は食事ほど不自由しないが、礼拝に対する日本人の理解が不足している。特に、ウドゥ（礼拝前に手足を洗うこと）を洗面所で行う場合、抵抗感を持たれている。モスクに立ち寄る事が最も良い環境であるが、臨時でも静かで清潔な礼拝スペースが提供されるだけでも満足度は高まる。キブラコンパスはスマートフォンのアプリで対応可能であるが、WiFi 環境が整っていない事が課題となる。
- ・温泉には入りたいが、人前で裸になれず、ほとんどの施設で水着着用が認められないことから、体験出来ていない。

### 3. 配慮すべき点

- ・ムスリムへの理解醸成と、受入側が正しい知識を有することが重要となる。戒律の厳格さには差があるが、受入側がそれに基づきサービスの内容を変えるのではなく、正しい情報を提供して、ムスリムがそれを選択することが望ましい。
- ・食事面では、原材料を英語表記、ピクトグラム表記する事が重要。何が食べられる料理であるのか、説明がなされると安心感が高まる。朝食ビュッフェ等は、ムスリムが食べられる料理を分ける、あるいはテーブル・会場を分けるなどの配慮も必要。ムスリムシェフがいるレストランは安心感がある。魚、野菜を中心とし、ムスリムに好まれる味付けをした料理が提供されるとよい。
- ・礼拝は、空港や駅にて、清潔で静かなスペースが提供されるとよい。ウドゥのため、男女別々で手足が洗える場所の提供や、タオル、スリッパの提供がなされるとさらに満足度は高い。礼拝マット、キブラ、礼拝時間の情報提供については、ある程度各自で対応も出来るが、有れば満足度が高くなる。

#### 4. ハラルに対する考え方

- ・ハラルに関する正しい知識を持つことが必要となる。日本で完全なハラル対応をする事は困難である。ローカルハラルで容易に認証を取っていくことにも留意が必要。

#### 5. 好まれる観光コンテンツ

- ・日本はフルーツの質が高く、人気である。雪、花、体験型の観光（フルーツ狩、浴衣着付、忍者体験等）が好まれる。温泉は興味があるが、戒律上、人前で入浴が出来ず苦慮している。
- ・Facebook 等の SNS に掲載したく、知名度が高く、見栄えがする写真を撮りたい。
- ・テーマパークは、有名な TDR、USJ の人気が高。アウトレットや繁華街での買い物も人気。アニメ等のサブカルチャーにも興味を示す。
- ・昇龍道エリアでは、雪と桜を同時期に見られることが、他地域には無いうりとなる。

#### 6. 受入環境整備の考え方・アイデア・PRについて

- ・「ムスリムフレンドリー」という言葉の引用に注意する。また、ムスリムに対応出来る飲食店の情報は、経営面からハラル性が低下する可能性があるため、ガイドブック掲載にはリスクを伴う。
- ・受入側が提供出来るムスリム向けのサービスの情報を提供するとよい。
- ・飲食店（ハラル対応）、モスク、礼拝できる場所、魅力的な観光地の情報があるとよい。モデルコースや地図があるとよい。

#### 7. 今後の課題・問題点・求められる事 等

- ・ムスリムの受入に積極的な施設に対して、ムスリムに関する知識を高める支援をし、正しい対応をしてもらう必要がある。
- ・ムスリムの受入が出来る施設、協力してもらえ施設を、ムスリム向けに情報発信していく必要がある。
- ・在日ムスリムの視点を盛り込んだ検討がなされるとよい。
- ・「ムスリムフレンドリー」等、言葉の使い方は、世界的な視点から誤解を招かないような配慮が必要。「ポークフリー」「アルコールフリー」等を使うことで対応していく。